

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和5年第36週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (36 週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 1 例。3 類感染症：報告なし。
4 類感染症：レプトスピラ症 1 例。5 類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、梅毒 3 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	80歳代	男	肺結核	咳
4類	レプトスピラ症	宮崎市	5~9歳	男	—	発熱、筋肉痛、蛋白尿
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	日向	60歳代	男	—	右下肢壊死性髄膜炎
	梅毒	宮崎市	40歳代	男	早期顕症梅毒 I 期	梅毒性バラ疹
		宮崎市	50歳代	男	早期顕症梅毒 I 期	硬性下疳
		日向	50歳代	男	無症状病原体保有者	なし

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 2, 147 人(定点当たり 44. 4)で、前週比 110%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、咽頭結膜熱及びA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナであった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【新型コロナウイルス感染症】

報告数は 1, 220 人(21. 0)で、前週比 110%と増加した。高鍋(33. 3)、中央(24. 0)、都城(23. 8)、日南(23. 8)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

【インフルエンザ】

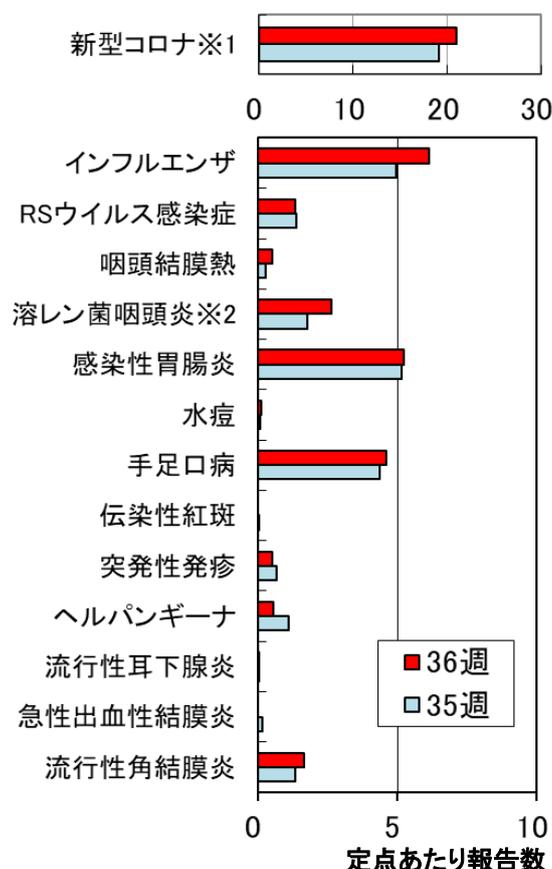
報告数は 356 人(6. 1)で、前週比 124%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0. 19)の約 32. 7 倍であった。延岡(14. 0)、小林(11. 5)、日南(8. 0)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

【手足口病】

報告数は 166 人(4. 6)で、前週比 106%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(1. 5)の約 3. 0 倍であった。延岡(10. 0)、宮崎市(7. 0)、小林(5. 7)保健所からの報告が多く、年齢群別は 1 歳から 5 歳が全体の約 8 割を占めた。

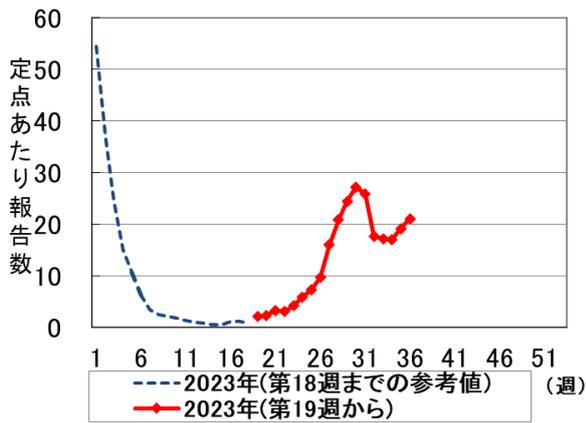
* 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均

《前週との比較》

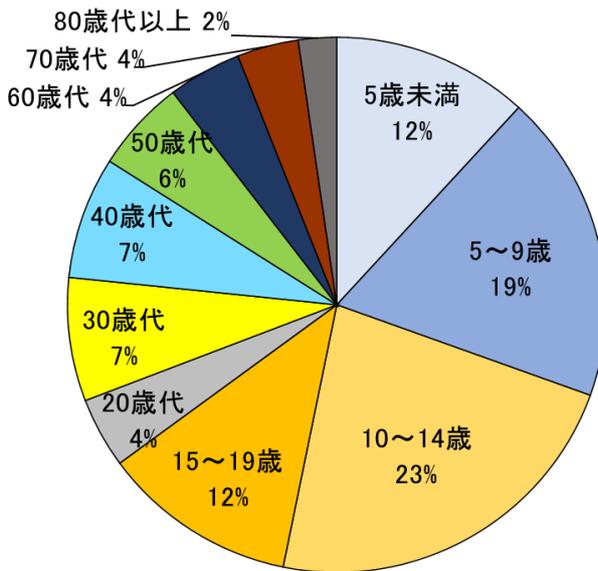


※1 新型コロナウイルス感染症
※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

新型コロナウイルス感染症 発生状況

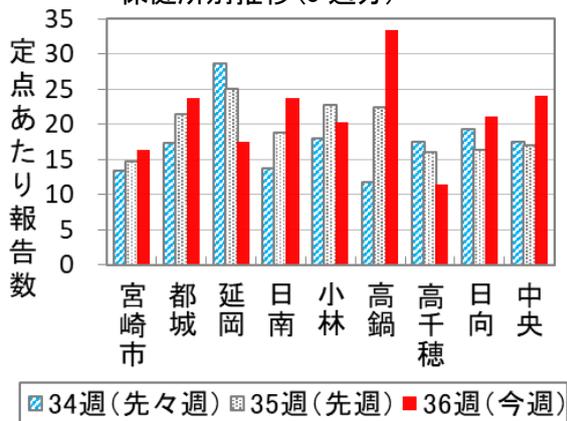


新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第36週)

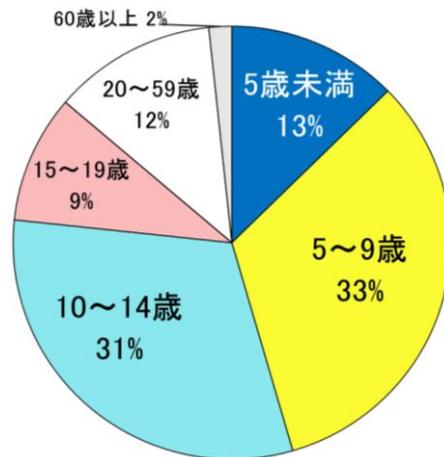


※新型コロナウイルス感染症の第1週～第18週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

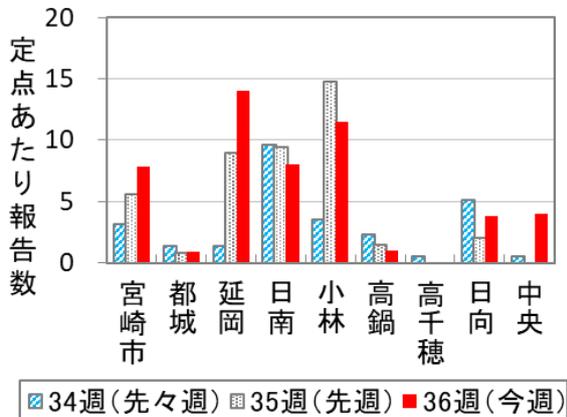
新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3週分)



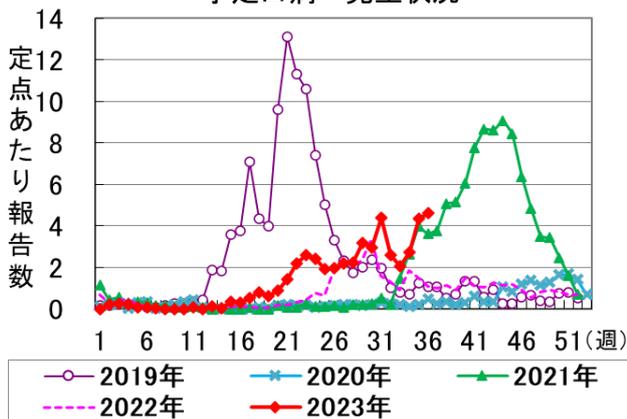
インフルエンザ年齢群別グラフ(第36週)



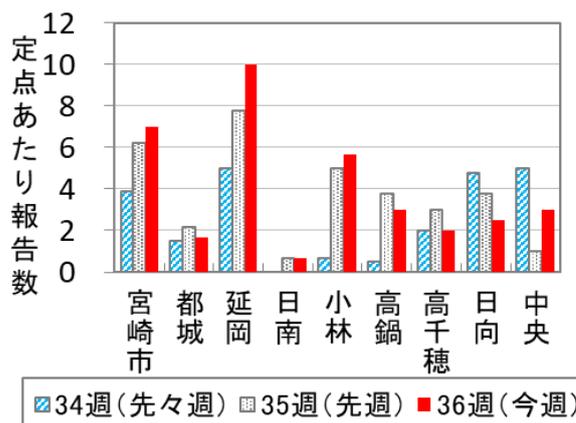
インフルエンザ 保健所別推移(3週分)



手足口病 発生状況



手足口病 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★ なし

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	手足口病(7.0)
都城	なし
延岡	インフルエンザ(14.0)、手足口病(10.0)
日南	なし
小林	インフルエンザ(11.5)、手足口病(5.7)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	なし

流行警報レベル開始基準値

・手足口病(5)

流行注意報レベル基準値

・インフルエンザ(10)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和5年9月11日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(O153:H21)	0～4歳	女	2023.08.16	胃腸炎(水様性下痢)	便	2023.08.28
<i>Salmonella</i> Hadar (O8(O6):z10:e,n,x)	10歳代	女	2023.08.26	発熱(37.0℃)、胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2023.08.31
<i>Salmonella</i> Corvallis (O8:z4,z23:-)	0～4歳	女	2023.08.29	発熱(37.7℃)、胃腸炎(水様性下痢)	便	2023.09.01

★ウイルス

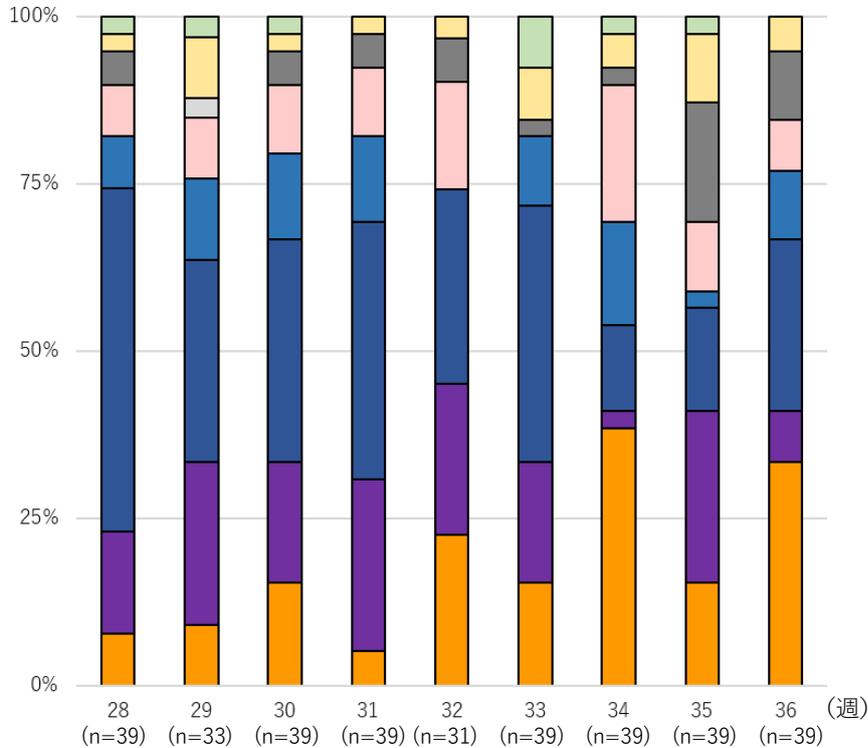
同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.07.18	A型インフルエンザ、40.0℃、咽頭痛、関節痛、咳、倦怠感	鼻咽頭ぬぐい液	2023.08.30
Influenza virus AH3	0～4歳	男	2023.07.19	A型インフルエンザ、38.8℃	咽頭ぬぐい液	2023.08.30
Echo virus 3	0～4歳	男	2023.07.18	胃腸炎(嘔吐・嘔気)、肝炎、発熱、上気道炎	便 咽頭ぬぐい液	2023.09.01
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.07.24	A型インフルエンザ、39.1℃、咽頭痛、倦怠感、咳	鼻咽頭ぬぐい液	2023.08.30
Influenza virus AH3	10歳代	女	2023.07.24	A型インフルエンザ、40.0℃	鼻汁	2023.08.30
Influenza virus AH3	5～9歳	女	2023.07.31	A型インフルエンザ、39.5℃、咽頭痛、気管支炎	鼻汁	2023.08.30
Influenza virus AH3	0～4歳	女	2023.08.01	A型インフルエンザ、39.4℃、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2023.09.07
Influenza virus AH3	40歳代	女	2023.08.17	A型インフルエンザ、38.7℃、上気道炎(咽頭痛)、咳、痰、倦怠感	鼻咽頭ぬぐい液	2023.09.07

○胃腸炎、肝炎の症状を呈する乳児1名からエコーウイルス3型が検出された。エコーウイルスを含むエンテロウイルスは経口感染しやすく、呼吸器系へのウイルス排泄は通常1週間程度であるが、糞便への排泄は発症から2～3週間程度持続する。このため、マスク着用や手洗いを中心とした予防対策の徹底が重要となる。2022/2023シーズンのインフルエンザウイルスは、2022年の52週に定点1.0を超えて以降、2023年14～15週に一時的に定点1.0を下回ったのみで35週まで定点1.0以上を維持したまま、2023年9月4日より2023/2024シーズンに入った。丁寧な手洗いやこまめな換気などの感染予防が重要である。

□新型コロナウイルスゲノム解析結果情報（衛生環境研究所微生物部）

新型コロナウイルスゲノム解析週と検出系統

- EG.5.1系統
- XBB.1.16系統
- XBB.2.3系統
- XBB以外のX系統
- BA.5系統
- XBB.1.9系統(EG.5.1を除く)
- XBB.1.5系統
- その他のXBB系統
- BA.2.75系統



XBB 系統は第 36 週で約 95%を占め、EG. 5. 1 系統（XBB. 1. 9. 2 の子孫株）が約 33%を占めた。

「X」で始まる名前は遺伝子組換えで発生した系統に付けられる。

XBB は BJ. 1（BA. 2. 10. 1 系統）／BM. 1. 1. 1（BA. 2. 75. 3 系統）の組換え株である。

ゲノム解析は概ね前週の検体を用いて実施している。なお、解析検体数が多くない場合は割合の変動が大きくなる。

衛生環境研究所においては、県内医療機関の協力のもと、新型コロナウイルスの PCR 陽性となった検体を毎週収集し、ゲノム解析を実施している。

🇯🇵 全国 2023 年第 35 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	234 例				
3類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	138 例		
4類感染症	E型肝炎	9 例	A型肝炎	1 例	エムボックス	1 例
	回帰熱	2 例	重症熱性血小板減少症候群	1 例	つつが虫病	1 例
	デング熱	7 例	日本紅斑熱	15 例	マラリア	3 例
	ライム病	2 例	レジオネラ症	45 例	レプトスピラ症	2 例
5類感染症	アメーバ赤痢	4 例	ウイルス性肝炎	5 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	39 例
	急性脳炎	10 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7 例
	後天性免疫不全症候群	10 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	8 例	侵襲性肺炎球菌感染症	21 例
	水痘(入院例)	5 例	梅毒	207 例	播種性クリプトコックス症	1 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	百日咳	11 例	風しん	1 例
	麻しん	2 例				

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 113%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザ、咽頭結膜熱、手足口病及び伝染性紅斑で、減少した主な疾患は特になかった。

インフルエンザの報告数は 12,638 人(2.6)で前週比 183%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.11)の約 23.4 倍であった。沖縄県(9.4)、宮崎県(5.0)、三重県(4.4)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 7 割を占めた。

新型コロナウイルス感染症の報告数は 101,289 人(20.5)で前週比 107%と増加した。岩手県(35.2)、宮城県(32.5)、秋田県(30.6)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 3 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均

月報告対象疾患の発生動向 <2023年8月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は39人(3.0)で、前月比115%と増加した。また、昨年8月(2.2)の約1.4倍であった。

《疾患別》

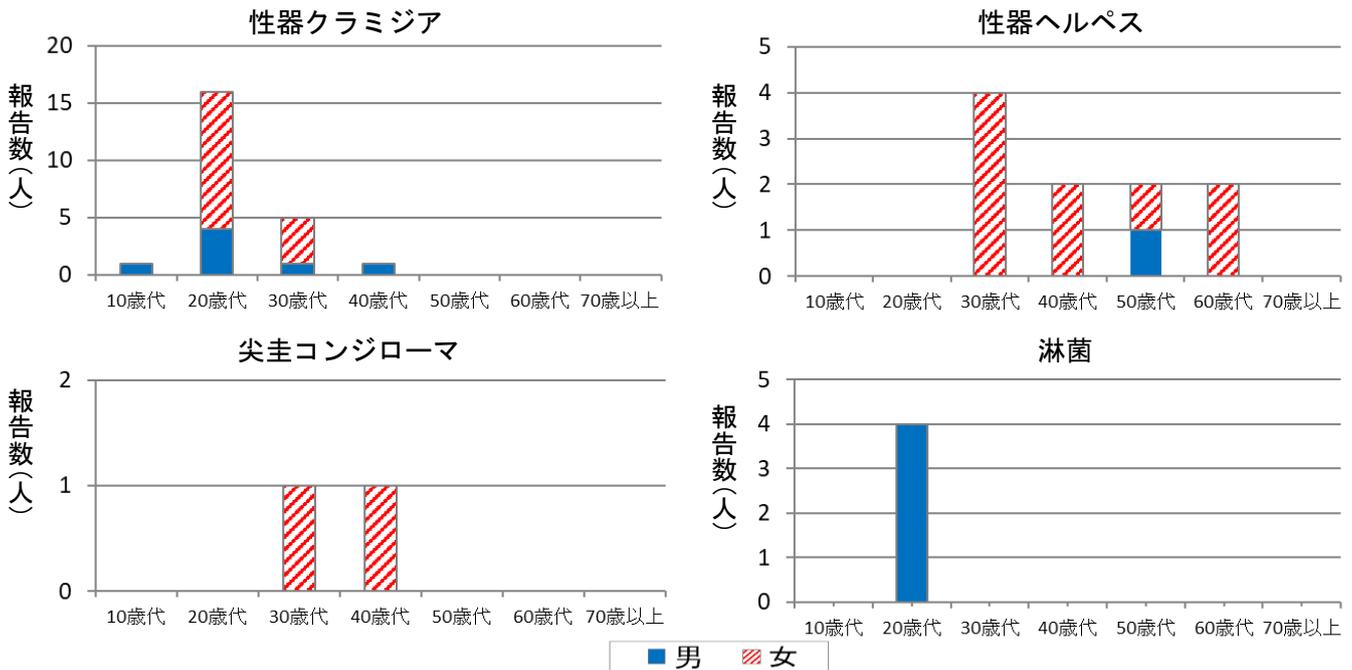
○性器クラミジア感染症：報告数23人(1.8)で、前月と同程度、昨年8月の約1.2倍であった。

20歳代が全体の約7割を占めた。(男性7人・女性16人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数10人(0.77)で、前月の約3.3倍、昨年8月の2.5倍であった。(男性1人・女性9人)

○尖圭コンジローマ：報告数2人(0.15)で、前月の2.0倍であった。(昨年8月報告なし、女性2人)

○淋菌感染症：報告数4人(0.31)で、前月の約0.7倍、昨年8月の0.8倍であった。(男性4人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,809人(4.9)で、前月比101%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,632人(2.7)で前月比101%、性器ヘルペスウイルス感染症821人(0.84)で前月比106%、尖圭コンジローマ529人(0.54)で前月比92%、淋菌感染症827人(0.84)で前月比105%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は26人(3.7)で、前月比118%と増加した。また、昨年8月(3.9)と同程度であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数26人(3.7)で、前月の約1.2倍、昨年8月と同程度であった。70歳以上が全体の約6割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,435人(3.0)で、前月比106%と増加した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,328人(2.8)で前月比107%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症99人(0.21)で前月比96%、薬剤耐性緑膿菌感染症8人(0.02)で前月比100%であった。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2023年 第36週(09月04日～09月10日)

疾病名		第35週	第36週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	287	356	126	9	98	40	46	6		23	8
	定点当り	4.95	6.14	7.88	0.90	14.00	8.00	11.50	1.00	0.00	3.83	4.00
新型コロナウイルス感染症	報告数	1108	1220	262	238	122	119	81	200	23	127	48
	定点当り	19.10	21.03	16.38	23.80	17.43	23.80	20.25	33.33	11.50	21.17	24.00
RSウイルス感染症	報告数	50	48	8	13	2	3	7	12		2	1
	定点当り	1.39	1.33	0.80	2.17	0.50	1.00	2.33	3.00	0.00	0.50	1.00
咽頭結膜熱	報告数	10	19	9	2			7	1			
	定点当り	0.28	0.53	0.90	0.33	0.00	0.00	2.33	0.25	0.00	0.00	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	64	95	27	36	4	2		8		16	2
	定点当り	1.78	2.64	2.70	6.00	1.00	0.67	0.00	2.00	0.00	4.00	2.00
感染性胃腸炎	報告数	185	188	49	37	3	14	44	11		25	5
	定点当り	5.14	5.22	4.90	6.17	0.75	4.67	14.67	2.75	0.00	6.25	5.00
水痘	報告数	3	5	3	1			1				
	定点当り	0.08	0.14	0.30	0.17	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	157	166	70	10	40	2	17	12	2	10	3
	定点当り	4.36	4.61	7.00	1.67	10.00	0.67	5.67	3.00	2.00	2.50	3.00
伝染性紅斑	報告数	2										
	定点当り	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	24	19	7	3	3	1	1	2			2
	定点当り	0.67	0.53	0.70	0.50	0.75	0.33	0.33	0.50	0.00	0.00	2.00
ヘルパンギーナ	報告数	40	20	3	1	9					6	1
	定点当り	1.11	0.56	0.30	0.17	2.25	0.00	0.00	0.00	0.00	1.50	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	1	1									1
	定点当り	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
急性出血性結膜炎	報告数	1										
	定点当り	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	8	10	10								
	定点当り	1.33	1.67	3.33	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2023年 第1週～36週保健所受理分)

2類感染症	結核	77例(1)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9例	腸チフス	1例
4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	12例	つつが虫病	10例
	レジオネラ症	4例	レプトスピラ症	1例(1)
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	6例
	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4例	後天性免疫不全症候群	4例
	侵襲性肺炎球菌感染症	10例(1)	水痘(入院例)	2例
	播種性クリプトコックス症	4例	破傷風	2例
			カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例
			クロイツフェルト・ヤコブ病	4例
			侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例
			梅毒	130例(3)
			百日咳	4例

()内は今週届出分、再掲